

●第22回通常総会第2回理事会 24日(金) 京田辺市中央公民館 11名の全理事が出席

通常総会決定のうち活動方針として個別専門会議の開催と全会員とのつながりを深めることについては、打ち合わせ会議が開かれたこと、そして繋がりを作るために電話をかけて意見を聞きながら活動への参加や出席をもとめ交流を深める取り組みです。しかし電話をかけても顔見知りでない、ハードルが高いという発言があり、電話をかけるマニュアルやアンケート形式で聞き出しやすいとかが必要とのことでした。会計から会費の未納入者が60人30%に及んでいることが報告されました。そのほか主な点では京都木津川マラソン大会へのかかわり方について、36回目の取組みが始まるので、これからのかかわり方では、事業が終わってからの精算方式ではなく、実行委員会から希望する作業を指定してくる契約方式での取り組みを確認しました。翌日申し入れをおこなった。契約成立すればその内容によって協力することになります。万一契約が成立しなければ支援も協力もできなくなります。これが今回の第2回理事会での大きな決定事項です。そのほか25周年記念事業について準備委員会の立ち上げも決定されました。

●中聖牛づくり 着工 8月25日(土) 竹割機及び幅精製機の試行 成功する 7月から竹割作業の軽減と均一資材の確保を狙いにして、高橋慶平さんに製造機の作製をお願いしてきました。作業を分解すると①押し込む装置と引き込む装置、最大の課題が動力源の確保でした。②竹割装置(5分割・4分割)、そして③幅精製装置の3つの機能になります。悩みに悩んで動力源を荷物運搬のキャリーの使用に気づき、最大の課題が固まり、製作が始まったのは 猛暑の集中した8月初旬で、着工日に制作が間に合うかギリギリでした。資材を調達して頑丈な土台をお盆も休まず製作、竹受けローラーの注文と取り付け、25日の着工日を第1次完成日として突貫工事、やっと25日に完成、重量があって持ち運びが大変なので、運搬用の2トントラックの上でテストを行いました。太い竹は懸念していた押し込みの滑りは見られませんでした。先端の細くなる(未使用部分)と空回りが発生。蛇籠の竹は直径20cmで計算していたので、能力と性能は計算取り確認できました。最も心配した引き込み力や押し込み力は、充分です。この機械が順調に機能すれば竹割りと幅精製作業は軽作業になります。高齢者にとって計り知れない貢献となります。もう少し使い勝手の良いものに改善をおこないたいとおもいます。

●中聖牛設置の日程確認 中聖牛設置の完成日を12月の14・15日と確定しました。中間の10月6日を竹蛇籠での生き物調査日に、竹蛇籠講習会を連続休みの10月8・9日と設定して、広く市民の参加を募り蛇籠製作日として河川レンジャーと共同で行うことなどを決めました。また原小組さんの都合をお聞きして中聖牛の組立を10月20・21日の2日間で作りあげる予定です。玉石入れは12月2日以後連日行います。我と思われる皆さん市民の力で投入を行います

竹の伐採(300本)は9月15・16・17日、竹幅の調整(1000本)は9月22・23・24日に計画しています。集合場所は玉水橋東詰め広場で、集合時間は9時30分です。現場に即移動します、伐採や、竹割のボランティアさん協力作業を行います。鋸、手袋、帽子、長袖、長ズボン、手ぬぐいなどをご用意ください。護岸や堤防保護など暮らしを守る川づくりにご参加ください。

●里山の会が京都大学から受注する形式で事業発注を 今回の中聖牛3基の経費は竹門先生の研究費からの支出となるので、里山の会がお手伝いを行う流れで推進します。高額な経費(素材や運搬経費)は大学の会計処理によって行われるための事務処理体制が必要になります。この手続きを早く行って、支障の無いように準備を急がなければなりません。事業を開始して面倒な問題が生じないよう事前準備が必用です。早急に事務処理を進めます。

●有限会社和束碎石さんと玉石の見積もり問合せ 今回の作業で全く見当がつかないのが玉石関係です。地元の建設業者から和束碎石さんを教えていただきました。社長さんは可畑さんで城陽市の出身と伺いました。お訊ねすると国道 163 号沿いで加茂から少し進んだ左手にある碎石所でした。お話の中で城陽市青谷と聞き不動産屋さんの可畑さんなら青年団時代にお付き合いを深めてきたお人がおじいさんになるとわかりました。そして担当されている小嶋さんは井手の玉水のお方でブリキ屋さんとわかり、おじいさんには大変お世話になりました。従業員さんや社長さんにはお世話になってきた縁のある人たちの子孫で、打ち解けてご無理をお願いしてきました。

●第 8 回マザーレイクホールが 26 日(日)コラム滋賀で開催 午後のワークショップでは 15 のグループで論議が話し合われました。私が参加した分科会では、治水問題を皮切りに始まり、琵琶湖の水位が上がると浸水が長引くことになり、水の出口が瀬田川一本で長く水が引かないので大変だということでした。簡単なことではないかももう一本排水路の増設を検討すればいいのではないかと、日本海へ排水トンネルの設置で、浸水期間の短縮になると意見がありました。この場には三日月知事もご参加されていました。澤井先生から 13m の装置を作れば落差 80m だからもう一本瀬田川が出来たことになるとの計算が届きました。浸水期間の短縮になり洪水防止対策になるのではと考えられます。しかし一方淀川下流の水利用者の工場や企業は水確保が必要なので、この意見には賛成が得られるのか、前途多難らしいと思われれます。まとめの会議では一笑に附された感じでした。

●河川レンジャーへの最終審査プレゼンテーションが 9 月 1 日(土)行われます。 里山の会で活動していただいている大釜智光さんが、発見講座や養成講座をクリアしてよいよ最終審査のプレゼンテーションを迎えられています。発表原稿を提出し、パワーポイントを使って、抱負を述べることになりました。この日は午前と午後に分かれて京都関係者と大阪関係者が自分の思いの発表です。木津川沿川での活動を希望されている皆さんが数人おられて厳しい競争率になりそうです。無事にパスされることに期待しましょう。

● 中聖牛製作のための蛇籠用の竹の切り出しを 9 月 15・16・17 日に計画しています。約 300 本を切り出します、皆様のご協力をお願いいたします。同時に割り作業も計画しています。引き続き 22・23・24 日は幅精製作業を行います。均一な幅の素材を作りあげることが昨年の作業の教訓です、きれいな竹蛇籠を作る基本なので頑張りたいと思います。

● 竹蛇籠の製作講習会の開催のお知らせ 10 月 7・8 日午前 9 時 30 分から 16 時まで 参加者を募集 参加費無料 20 組 100 人募集、 会場 京都府綴喜郡井手町玉水 木津川右岸 玉水橋東詰め下流堤防広場 JR 奈良線 玉水駅下車西へ玉水橋まで徒歩 15 分

持ち物 帽子 水筒 弁当 しっかりした靴 小槌 手袋 手ぬぐい ペンチ 駐車場あり、無料
プログラム 9 時 30 分 集合 打合せ 自己所紹介 中聖牛見学 木津川はどんな川説明 10 時 30 分 竹の切り出し 割り 幅調整 基礎組立 12 時 昼食 12 時 30 分 竹蛇籠編み 2 本 ドッキング完成 全員集合写真 16 時閉会の挨拶 解散

申し込み方法 FAX 0774-64-4183 ハガキで連絡ください。住所 610-0331 京田辺市田辺深田 15 やましろ里山の会

メール fddb257ybb.ne.jp 記載内容 全参加者氏名 年齢 住所 連絡方法 電話番号
参加方法

● 会誌 45 号 原稿募集始まる 仲間の広場へ投稿を 日頃の想い 自然の移ろい 自家農園 私の一枚〔写真〕 庭の花
風景写真(春の木津川 夏の木津川 秋の木津川)

ご参加ください

第22回 里山講演会 ご案内

西日本豪雨に続く猛暑の連続、命に係わる気温、逆コースをたどった台風と異常な気象現象が連続しています。近畿では東南海地震の発生がいつ起きても不思議でないといわれています。阪神淡路大震災、つい最近は大阪北部地震が発生し、その前兆ではないかとも聞こえてきます。長年地震について調査されてきた有本敏雄さんを迎えて、現在知りうる正確な資料のご説明をいただける機会をお願いいたしました。また小林慧人さんは植物学の立場から竹について研究調査を重ねてこられました。数年前から今年は「花が咲く」と宣言されてこられました。現実に枯れ始めている竹藪が目立ちます。興味深い研究者であります。ご両人をお迎えしての講演会です、多数のご参加をお待ちしております。

お気軽に立ち寄ってください。

9月1日(土) 防災の日 13時開場 13時30分開演 京田辺市中央公民館

講演「大阪府北部地震と南海トラフ地震」

そのときどうする 防災士 有本敏雄 氏

報告「竹の花が咲いた」 京都大学院生 小林慧人 氏

問合せ 0774-64-4183 (fax 兼用) ホームページ参照 参加費無料 先着順で受入れ 満席でお断り

説明資料代 1部 200円(希望者のみ)

主催 NPO やましろ里山の会